

行事報告 Event report

令和7年度 近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会

令和7年度近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会が、去る9月14日、大阪府大阪市にて開催されました。近畿地区5府県4市、中部地区6県の母子寡婦福祉連合会の会員等618名が一堂に会し、本県からは山本広枝理事長をはじめ36名が参加いたしました。ここに概要をご報告申し上げます。

開会式では、開催県である大阪府母子寡婦福祉連合会・滝本美津代理理事長および全国母子寡婦福祉団体協議会藤田君子理事長（山本広枝副理事長代読）による主催者挨拶に続き、大阪府吉村洋文（よしむらひろふみ）知事（福祉子ども家庭局福本局長代読）、大阪府議会金城克典（きんじょう かつのり）議長、大阪府社会福祉協議会井出会長より来賓祝辞が述べられました。

その後、こども家庭庁支援局家庭福祉課 課長補佐・石田有介様より、ひとり親家庭等の支援に関する行政説明が行われました。

続いて、全国統一活動テーマ「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」のもと、

- ・ 母子に関するテーマ「目指そう自立、活かそう支援策」
- ・ 母子・寡婦共通のテーマ「未来へつなぐ、世代の輪」
- ・ 子どもに関するテーマ「すべての子どもに安心と希望を！」

の三つのサブテーマについて、シンポジウム形式で研修討議が実施されました。

本県からも、ひとり親家庭の子どもの学習支援会において「被支援者から支援者へ」と成長し、現在も活躍している若者による『素敵な学びの恩送り～被支援者が支援者に！学びのバトンを未来へ～』の意見発表が行われ、助言者を交えた熱心な討議が展開されました。また会場からも意見が寄せられ、活発で笑いの多い研修となりました。

その後、大会決議（案）および申し合わせ事項（案）が提案され、いずれも満場一致で採択されました。

閉会式では、次回開催県である大阪市ひとり親家庭福祉連合会・北玲子（きた れいこ）会長より挨拶があり、全日程を終了しました。



令和7年度 全国母子寡婦福祉研修大会

11月22・23日、鳥取県米子市で令和7年度全国母子寡婦福祉研修大会が開催され、全国から約550名が参加しました。研修討議では、近畿・中部地区母子寡婦福祉研修大会に続き、愛知県が「支えられる側から支える側へ」とつながる“素敵な恩送り”の取組を発表し、意義ある実践として評価をいただきました。

素敵な学びの恩送り～被支援者が支援者に。学びのバトンを未来へ～

学習会は「居場所」であり、「きっかけ」

平成27年に始まった「ひとり親家庭の子どもの学習会」。ここは、ただ勉強をする場所ではありません。そっと寄り添ってくれる人がいて、安心して過ごせる居場所。そして、自分を少し好きになれたり、新しい世界と出会えるきっかけの場です。今回は、かつて学習会に通い、今はサポーターとして後輩を支えている3人の卒業生の声をご紹介します。これは「学びの恩送り」が生み出す、あたたかな循環の物語です。

卒業生の声

Rさん（国立大学医学部）

家庭や学校に居場所を見いだせなかった中学生時代、学習会は「もう一つの世界」でした。

学習会は、ひとりで頑張りすぎなくていい場所。世界は思っているより広い。どうか頼ってみてください

Mさん（教育学部）

中学2年から高校3年まで通い、現在は同じ会場でサポーターを務めています。

『分からない』と言えるようになり、人との関わりが怖くなくなりました。ここで自分の“好き”や夢を見つけてほしいです

Tさん（理工学部）

漠然としたつらさを抱えていた時期、学習会は寄り添い続けてくれました。

目標がなければ、目標を探すことを目標にしてもいい。逃げることも、時には必要です

恩送りがつなぐ未来

学習会で支えられた子どもたちが、自分の経験を力に変え、今度は誰かを支える側へ。「ありがとう」と「誰かの役に立ちたい」という想いが、次の世代へと受け継がれています。学びのバトンは、確かに未来へとつながっています。

地域・企業・行政の皆さまへ

この循環を広げるために、三つの連携が欠かせません。

●地域との連携

多様な人との出会いが、子どもたちの学びと居場所を豊かにします。

●企業との連携

学用品や食の支援、社会人との交流は、子どもたちの未来を育てる力になります。

●行政との連携

継続的な学習支援と居場所づくりを、制度として支えていただきたいと思います。



おわりに

学習会は、「支えられた記憶が、次の誰かを支える力になる」場所です。

私たちはこれからも、子どもたちと共に歩み、この学びの恩送りを未来へとつないでまいります。

